

令和 3 年 12 月 21 日

## 第 6 次川西市総合計画策定方針(案)

### 1.めざす都市のイメージ

### 2.本市の大きな方向性

### 3.構成と期間

#### 基本構想

【内容】本市の将来都市像を示すとともに、ありたいまちの姿(政策)、これらを実現するための判断基準となる、大切にすることを示します。

【期間】8年間(令和6年(2024)4月~14年(2032)3月)

#### 基本計画

【内容】基本構想の実現のための基本的な施策を体系的にまとめたものです。

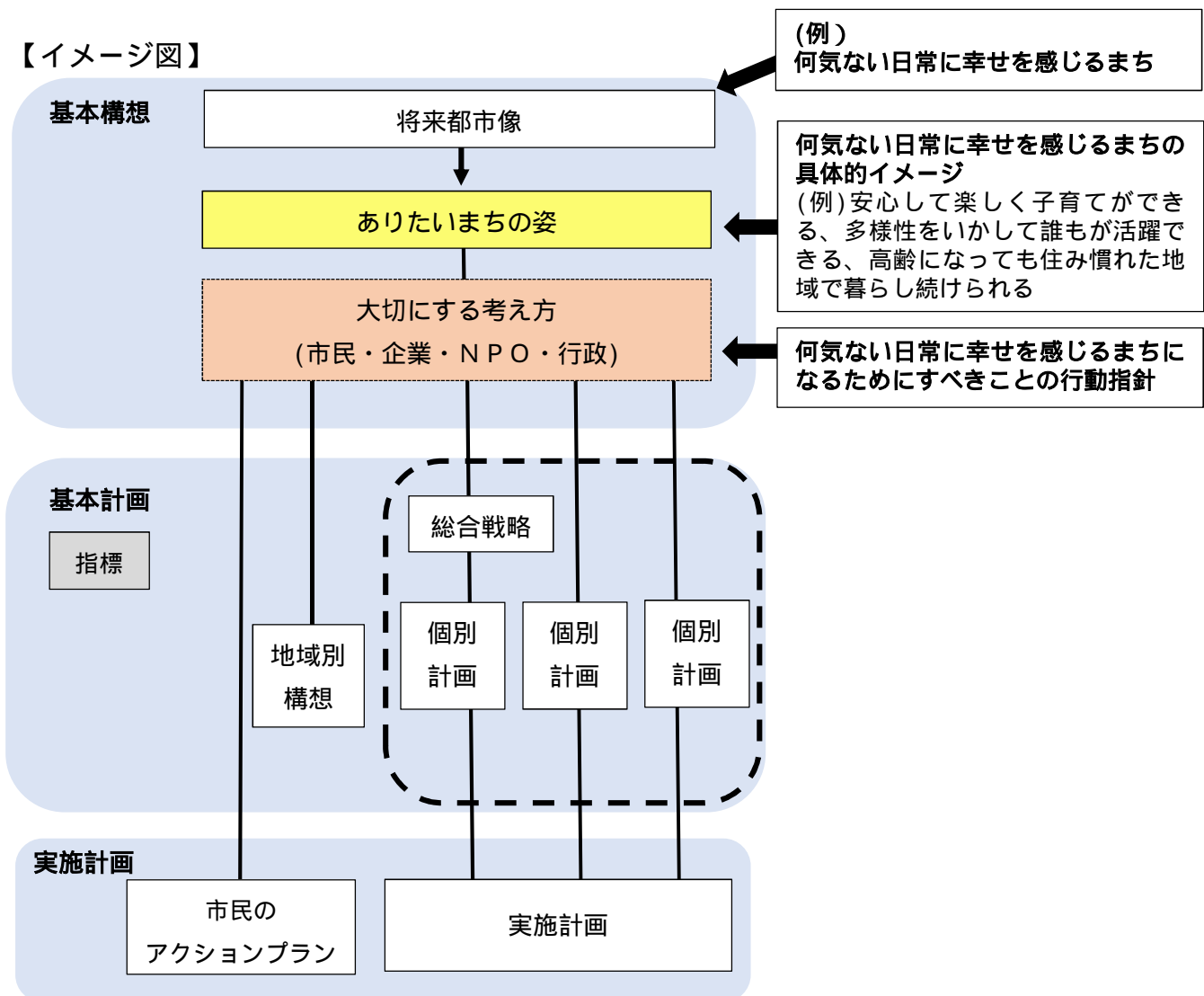
【期間】8年間：随時見直し

#### 実施計画

【内容】基本計画に示した施策の具体的な事業を示したものです。

【期間】8年間：毎年見直し

#### 【イメージ図】



## 4. 役割

### めざす都市像を共有すること

総合計画は市民・事業者・行政がめざす川西市の将来の姿を共有する指針です。

### 大切にしている考え方を共有すること

総合計画は市民・事業者・行政が大切にしている考え方を共有するものです。

### 行政の理念を示すこと

総合計画は、めざす都市像になるために行政が大切にしている考え方を示したものです。

## 5. 次期計画で大切にしている視点

### -1 市民とともに達成する計画であること

総合計画は行政が実施する事業を記載した計画ではなく、市民・市民公益活動団体・事業者・行政が、達成に向け自主的かつ主体的に行動する計画とします。

### -1 みんなが知っている計画であること

市民が共感でき、広く共有できる大切にしている考え方をおくことで、誰もがどう行動すべきかを理解できる計画とします。

### -2 わかりやすい計画であること

市民とともにまちづくりを進めるため、本市がめざす都市像・大切にしている考え方を市民・市民公益活動団体・事業者・行政が共有できるようなシンプルでわかりやすい計画とします。

### -1 環境の変化に対して、柔軟に対応できる計画であること

社会情勢の変化、市民の幸せのあり方の多様化など、市を取り巻く状況は常に変化しています。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大は市民の生活に大きな影響を与え、これまでの常識を大きく変えるきっかけとなりました。アフターコロナの時代においても、市民の幸せを大切にしたいまちづくりを進めるための柔軟な対応をとれる計画とします。

### -2 成果による適切な進行管理を行う計画であること

主観的な情報での判断ではなく、EBPM(証拠に基づく政策立案)を実践するとともに、施策の評価を指標等により明確に把握し、PDCA サイクル、OODA ループ

を活用した適切な進行管理により、効果的かつ効率的な事業展開を図ることができる計画づくりを行います。

PDCA サイクル：業務改善に効果的な手法( 計画作成 行動 振り返り 改善)  
OODA ループ：新規事業の計画に効果的な手法、仮説を立てて、実践( どうなりたいかの確認 選択肢のリストアップ 1番効果的と思える仮説に沿って行動) 何回も行い、経験を積むことが大切。

**-3 重点事項や優先順位が明確で、戦略性を持った計画であること**  
限られた財源を、必要な事業に有効に配分するため、計画の策定段階から何に重点的に取り組むのかを明確にし、戦略性を持った計画づくりを行います。

**-4 行財政運営をすすめること**  
持続可能なまちづくりを進めるため、総合的で効果的な行財政運営を行います。

**-5 個別計画と連動した計画とすること**  
総合計画は、全ての行政計画の上位計画に位置づけます。各計画の役割を明確にし、進捗管理を活用することで、効果的なマネジメントサイクルを構築します。

**まち・ひと・しごと創生総合戦略を兼ねる**  
まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針である政策5原則(自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視)を意識し、重点事項や優先順位を明確にします。

**DXの推進**  
急速に発展する情報技術(ICTやIoTなど)や人工知能技術(AI)は、私達のくらしや活動に大きな変化をもたらしています。まちづくりにおいても、積極的な活用を進めることで、より暮らしやすい社会の形成を図ります。

**SDGs(持続可能な開発目標)の推進**  
「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した令和12年(2030)年を期限とする国際目標の達成に寄与するため、SDGsの理念や目標を踏まえたまちづくりを進めます。